

はじめに

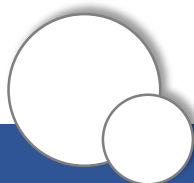
皆さんが考える「良い授業」とはどのようなものでしょうか。

例えば、「生徒が笑顔になる授業」や、「生徒が新しい発見に出会える授業」、「生徒が『もっと調べたい』と思う授業」など、その表現は様々です。これらに共通するのは、「生徒」が主語であることです。そして、授業の中で生徒が活躍する場面をつくるのが、教員である皆さんの大事な役割です。

皆さんはこれから数多くの生徒たちと出会い、日々の教育活動を通して彼らの成長を支援していくこととなります。とりわけ教科指導（授業）は学校における教育活動の根幹を成すものです。授業を通して生徒たちの「生きる力」を育むためには、教員自身が向上心をもって自らの専門知識・技術を磨き続ける姿勢が大切です。それに加えて、アンテナを張り、社会的なニーズ（「SDGs（持続可能な開発目標）」の理念や「Society5.0」の実現等）を捉え、それを授業づくりにいかそうという意識も必要になります。

生徒の「生きる力」を育むために、学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」の視点を意識し、生徒が主語となる授業づくりを目指しましょう。

総合教育センターでは、皆さんの授業づくりをサポートしていくため、「授業づくりガイド」を作成しました。どうぞ、この冊子を十分に活用し、より良い授業づくりを目指してください。



授業づくりガイド活用の手引き

初任の方は

■ 校内の協議で

校内で他の教員や管理職と協議を行う際に、本冊子を持参しましょう。協議中の内容のうち、各章に関わる話題や指導・助言について、該当ページの余白、あるいは章末の「学びの記録」に随時書き留めていきましょう。

また、協議前に本冊子を読み返し、理解を深めたい事柄を洗い出してから協議に臨むことで、一層学びを深めることができます。

■ 授業づくりで

授業において、瞬時に全ての資質・能力を生徒に身に付けさせるのが不可能であるのと同様に、より良い授業づくりも瞬時に実現できるわけではありません。少しずつでも試行錯誤を繰り返すこと、^う倦まず^{たゆ}弛まず学び続け、実践し続けることが大切です。

そのためにも、「次の単元では、この章にあるような生徒への働きかけを取り入れてみよう」「前期が終わるころまでに、この章の内容を意識しながら授業ができるようになる」といった、自分自身の目標設定にも活用してみましょう。

実践後は、指導を通して得られた気付きや学び、反省点を冊子に書き留めておきましょう。それらを授業改善に生かすことが、授業力向上につながります。



■ 校外の研修で

総合教育センターが実施する初任者研修講座において、随時この冊子が使用されます。研修時には必ず持参してください。研修中に配付された資料にある発展的な内容や実践紹介、協議内容についても、要点を書き留め、自分自身の理解を深めるための一助としてください。

初任者としての一年間、本冊子を日常的に手に取り、書き込みを続けることで、自分自身にも授業づくりの視点が徐々に蓄積されることが実感できることでしょう。ぜひ、「教員としての成長の記録」を刻むものとして、本冊子を存分に活用してください。

初任者の指導を担当する方は

本冊子には、授業づくりの要点として初任者に学んでほしい事柄がまとめられています。指導を担当する方の指導・助言の際にも、冊子の内容と関連付けながらお伝えいただくことで、初任者の学びが深まると思います。総合教育センターWebサイトにダウンロードできますので、ぜひ御一読いただき、校内での指導・助言において御活用ください。

授業改善の推進を担当する方は

本冊子は、神奈川県を担う教員として実践すべき授業の在り方についてまとめたものであり、初任者だけでなく全ての教員にとっても、実践した授業を振り返り、改善を行う際の視座となるよう構成されています。初任者に対する校内研修に用いるだけでなく、校内授業研究等、授業改善を図る機会において御活用ください。

◆校内における活用例

- ・初任者およびその他の教員への指導・助言の際の参考資料として
- ・研究授業におけるテーマの設定、協議題の設定等の際の参考資料として
- ・学校教育目標の実現に向けた授業改善の具体的方策を検討する際の視座として

大切なのは、学習指導要領にある「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組を促進させるために、校内での教員間の働きかけを活性化させることです。

本冊子を素材として用いることで、目の前の生徒達の実態に合わせた授業づくりについての教員間の情報共有が活性化し、校内のカリキュラム・マネジメントの推進に寄与することができましたら幸いです。

■ 不断の授業改善のために ■

生徒により良い学びを提供するためには、自身の営為を客観的に観察し、評価・改善するといった「R-PDCAサイクル」を回し続けることが重要です。しかしながら、たった一人で全ての教育動向に目を配り、積極的に校外の研修に参加するのは、時間的にもなかなか難しい、というのが現状でしょう。

本冊子は新たな情報を集約しながら、初任者に必要な情報を取捨選択し、毎年内容を更新しています。教育実践にあたって必要な情報を収集する手段として御活用ください。

■ より良い学びが提供できる教員集団となるために ■

いま一度授業づくりの基本を確認することで、自身の授業の強みが再確認できることと思います。それらを教員同士で伝え合うことで、互いの授業づくりの幅を広げ、生徒たちにより良い学びが提供できるような教員集団を創出してください。

初任者にとって、はじめに配属された学校での経験は、その後の教員生活を左右するほどの大きさを持つといっても過言ではありません。皆さんが協働して授業づくりに取り組む姿勢、それ自体が、初任者の大きな支えになります。

本冊子の活用によって、直接的あるいは間接的に初任者を指導・支援して下さいますよう、お願いいたします。



序

章

いま求められている授業

- さあ、一步を踏み出そう！ 6
- 授業づくりのキーワード 8
- 授業づくりガイドの構成 10

1

章

授業づくりの前に

ビジョンをもつ

- 1 社会に開かれた教育課程 12
- 2 育てたい生徒像を思い描く 14
- 3 教員の思いを伝えよう 16

生徒を理解する

- 4 生徒が考え気付く授業 18
- 5 生徒のことが分かる場面 20
- 6 高校生の特性を知ろう 22
- 7 一人ひとりの理解の仕方 24

環境を整える

- 8 最適な学習環境をつくろう 26
- 9 教室における教員の存在感 28

学びを支援する

- 10 インクルーシブ教育の推進 30
- 11 教育のユニバーサルデザイン 32

2

章

授業の計画にあたって

年間指導計画を立てる

- 1 「生徒に身に付けさせたい力」とは . . . 36

指導と評価を計画する

- 2 単元（題材）の目標の考え方 38
- 3 評価規準を設定する 40
- 4 「指導と評価の計画」を立てる 42

授業をつくる

- 5 「主体的・対話的で深い学び」とは . . . 44
- 6 学習活動を組み立てる 46
- 7 学習目標に合った教材 48
- 8 ポイントは授業構成 50
- 9 学習活動にはふさわしい学習形態がある . . 52
- 10 言語活動の進め方 54

3

章

授業の実践にあたって

指導力を磨く

- 1 発問や指示は的確に 58
- 2 「聴く態度」を育てよう 60
- 3 黒板の使い方 62
- 4 机間指導の仕方 64

ツールを活用する

- 5 ワークシートの活用の仕方 66
- 6 ICTを活用した学び 68

4

章

学習評価と授業の振り返り

評価の基本的な考え方

- 1 「学習評価」とは 72
- 2 学習の様子を見取る 74
- 3 「主体的に学習に取り組む態度」はこれを見る . . . 76

生徒の学びを振り返る

- 4 テストから見取る 78
- 5 提出課題やパフォーマンスから見取る 80
- 6 生徒とともに振り返る 82

教員の指導を振り返る

- 7 授業実践を振り返る 84
- 8 問題点や改善点を整理する 86
- 9 授業研究を活用する 88

5

章

各教科等の授業

- | | |
|------------------------|--|
| 1 国語 92 | 7 外国語（英語） 104 |
| 2 地理歴史・公民 94 | 8 家庭 106 |
| 3 数学 96 | 9 情報 108 |
| 4 理科 98 | 10 農業・工業・商業・水産
・看護・福祉 110 |
| 5 保健体育 100 | |
| 6 芸術 102 | 11 総合的な探究の時間 112 |

参考資料

- 1 一人ひとりの学習スタイルを把握しよう 116
- 2 「単元（題材）の計画」を立てよう 118
- 3 情報教育について 120
- 4 授業づくりに役立つ資料を活用しよう 122